

[1~2行目] 題名は14ポイントで行の中央に(英数字などはArial)

[3行目] (第3報、主・副題はゴシック体で、副題は10ポイントで行の中央に)

[1行空ける]

## Main Title of the Presentation (14 Point, Arial)

(Subtitle) (10 Point, Arial)

[1行空ける] (和英文の主・副題が2行以上にわたる場合は1行当たり120mm以内で中央に)

[著者名の書き始めは文字数が一番

設計太郎(正, 日本設計大学工学部, Taro SEKKEI)

長い者の行に他の者も合わせる。

製図花子(学, 日本設計大学大学院, Hanako SEIZU) ※

講演者の前に○を付ける。

○工学次郎(製図工業大学設計工学部, Jiro KOUGAKU) ※

1行に1名, 全角10ポイント]

図面喜三郎(設計産業㈱総合事業部, Kisaburo ZUMEN)

[2行空ける]

会員の場合、「正」「学」などを記入する↑↑

[2行空ける]

著者が「学生」である場合は、著者名の括弧の後ろに「※」をつける

### 1 はじめに(ゴシック体(英数字はArial体))

[1行空ける]

A4白紙縦置きで、上下のマージンは20mm、左右のマージンは18mm、縦2段組、左右の段間は10mm、1段50行、1行23文字の設定とする。本文文字の書体は明朝体(英数字の書体は基本的にCentury体)、大きさは10ポイントとする。

章番号(Arial体)は左端から書き、1コマ空けて章名を(ゴシック体、英数字はArial体)書く。第2章以降は、章番号および章名の前後と本文の間は1行空ける。ただし、章や節が原稿用紙の最上段(最下段が章名や節名にならないよう)になった場合は、前の文章と1行空けないで、第1行目を書く。章番号の後に、ピリオドは打たない。

[1行空ける]

#### 1.1 節名が2行以上にわたる場合の書き方はこの例による(2行目の書出位置に注意)

前の文章と1行空け、行の左端より節番号を書き、1コマ空けて節名を書く。本文は次の行から1コマ空けて書き始める。

新しい段落は、このように1コマ空けてから書く。文章の区切りには、読点として全角カンマを、句点として全角ピリオドを用いる(括弧を付して補足説明する場合は、この例のように本文の句読点の前に括弧を挿入し、括弧内の文章の最後には句読点を付けない)。

句読点は、行の最後の場合に限り、追いつまなくてもよい。数字、英字や記号などは、すべて半角(見出し以外は基本的にCentury体)で書く。文献番号は、1), 2) または 3), 4) のように上付文字で書く。

##### 1.1.1 項名が2行以上にわたる場合の書き方

はこの例による(2行目の書出位置に注意)

前の文章との間には空行を設けないで、行の左端から項番号を書き、1コマ空けて項名を書く。本文は次の行から1コマ空けてから書き始める。項以下の区分は、(a), (b)あるいは(1), (2)さらに細かい区分は①, ②などとする。その書き方は、項の場合に準じる。

[1行空ける]

日本設計工学会20XX年度春季研究発表講演会(20XX年X月X日)  
[左段最下部の2行分に8ポイントで講演会名(西暦表示)をこのように表示する。日付を必ず記入すること]

### 2 図表の書き方

[1行空ける]

本文と図表の間は、1行以上空ける。また、次ページの見本のよう、図番・図題は図の真下中央に配置し、表番・表題は表の真上中央に配置する。

図題、表題は、英語あるいは日本語で記述する。また、図番および表番はそれぞれ、Fig. 1あるいは図1, Table 1あるいは表1のように通し番号として書く(Arial体、ゴシック体)。本文で引用するときには、図1, 表1, …, 図10, 表11などとする(ゴシック体太字とArial体太字)。

また、図表はできるだけ下側および右段に寄せて配置するとよい(図表で区切ること短い本文を書かない)。図表中の語句(キャプション)はすべて8ポイント以上の大きさで、図表題と同じ言語で記述する。

### 3 式の書き方

[1行空ける]

式は、左端より3コマ以上空けて書き、式番号は括弧を付して右端に書く。例えば、

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \quad (1)$$

のようにする。ただし、

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \quad (2)$$

ここで、 $a$ は変動荷重(kN)。

このように、数式の書体については、量記号はイタリック体で、数学記号・単位記号(SI単位系)はローマン体で書く。数式内に使われているフォントと同じフォントを使うことを推奨する。分数を書くときは、式(2)のような表記法を用いる。ただし、本文中に記述するときには、 $b = d(e+f)/(g+h)$ とする。

### 4 両段にまたがる図表・式の場合

[1行空ける]

本文、図、表、式、脚注、文献などは、原則として1段(片側)に書き、2段(左右両段)にまたがって書かない。ただし、図、表または式が1段に収まらない場合は、2段にまたがって書いてもよいが、この場合は表1のように当該ページの最下段あるいは最上段に配置し、本文が図表等によって中断されないように書く。

表1 適用したシステムの応答 (左右の2段を使う場合)

原稿の最終部分である参考文献以降にも、図表などの記述があるのは、望ましくない。

図表 (図表番・図表題も含む) の記述について、原稿全体を通して、同一の言語(英語あるいは日本語)で記述する (英語での記述を推奨する)。

図表と図表の間に短い行数の本文を置くようなレイアウトは、読みづらくなることにも留意して、本文と図表の割り付けを工夫する。

章・節・項の番号・図表番号は Arial 体、章・節・項の名前はゴシック体で、名前に含まれる英数字は Arial 体で書く。それ以外で本文中に使われる英数字などの書体について Century 体を使用する。

見出し(章・節・項の番号や題目)が、段などの最下部に割り付けないように工夫する。工夫したうえで最下部になる場合は、右段や次ページに送る。

表2 実験のパラメータ 図表題が2行以上にわたる場合は、この例による

表題および表中の語句は、英語あるいは日本語のどちらかに統一する (英語を推奨する)。

文字の大きさについて、表題は 10 ポイント、表中語句は 8 ポイント以上とする。

[1 行空ける]

図全体を、このような枠で囲まない。

図題および図中の語句は、英語あるいは日本語のどちらかに統一する (英語を推奨する)。

文字の大きさについて、表題は 10 ポイント、表中語句は 8 ポイント以上とする。

図1 システム A の概要

(他の文献から転載したときは図名の直下に、文献 8) から転載または図名の後に 8), などと明記すること)

[1 行空ける]

5 おわりに

[1 行空ける]

以上に述べたように、原稿執筆において注意すべき事は、読者が読みやすいように配慮することである。最後のページの左右段の長さは、ほぼ同一となるように割り付ける。

図全体を、このような枠で囲まない。

原稿執筆時には、原稿画面を最大限拡大し、フォントの違いが一目でわかる状態で編集すると便利である。

図2 システム B の概要

参考文献

[1 行空ける]

- 1) 設計太郎, 製図次郎: CAD 設計論, 設計工学, 28, 13 (1995), 563. [和文雑誌の例] [均等割付, 2 行目以降の書出位置に注意]
- 2) Jones, P., Young, T. and Thomson, G.: Analysis and Design of a New Bearing, J. Machine Element, 43, 13 (1992), 145. [英文雑誌の例]
- 3) 設計花子: 機械設計の理論と応用, 新関東書籍, (1990), 236. [和文書籍の例]
- 4) Douglas, A. E.: Introduction of Mechanical Design, New York Pub. Co. (1993), 53. [英文書籍の例]
- 5) ○○
- 6) ○○
- 7) ○○
- 8) ○○
- 9) ○○
- 10) ○○
- 11) ○○
- 12) ○○
- 13) ○○
- 14) ○○
- 15) ○○
- 16) 日本設計工学会 編: 設計の原理, NPC 出版, (1994), 123. [和文書籍 (編集) の例]